

高野光正コレクション 発見された日本の風景

日本橋高島屋 23. 08. 17~09. 03 大阪高島屋 09. 06~09. 25

「高野光正」(1939~)は、明治時代に描かれ欧米に渡った日本人による絵画に魅了された作品を収集して、一代コレクションを築いた実業家である。

明治時代は、日本は西洋諸国の文物や人々を迎え入れ一大変革を経験した。

それは美術の世界も同様で、日本を訪れた外国人の画家たちは、日本の文化や自然を描き、また日本人の画家たちは西洋人から学んだ新しい技法で、自国の風景や暮らしを描くようになった。こうした作品の多くは、外国人に求められて海外に渡り、長い間眠っていたが「高野」氏の長い歳月をかけての尽力により、これらの作品を収集して日本に里帰りをさせている。現在「約700点」にのぼるコレクションは、ほぼロンドンやアメリカで入手をした作品である。



アルフレッド・パー
ソンス 《富士山》
水彩/紙 左図

笠木治郎吉
《提灯屋の店先》
水彩/紙 右図

「笠木治郎吉」は、横浜で土産物の水彩画を描いていたが、これまでほとんど知られていない画家であった。しかし、本コレクションが公開されると“強烈な個性”が話題となった。油彩画と見間違える濃厚な色彩、緻密な描き込み
に、映画の一場面のようなドラマティックな表現が注目される。



チャールズ・ワーグマン

《見物する人々》 水彩/紙 左図

チャールズ・エドウィン・フリップ

《戎座》 水彩/紙 右図